

窓からはじめる防犯対策

カワサキ株式会社

林 則子



建築環境工学では人が建物の中で快適に過ごすための要素には「換気」・「採光」・「温熱環境」・「音響」などがあると言われていますが、その要素の多くが窓に影響されるものであります。また同時に侵入犯罪における窓の役割も非常に大きく、窓の防犯対策をすることでほとんどの犯罪を未然に防ぐことができるといっても過言ではありません。

私はビルや住宅などのサッシ・硝子を販売する「カワサキ株式会社」で先代社長の長女として主に経理畑を歩んでまいりました。今から10年前に日本板硝子が防犯ガラス「セキオ」を発売したのをきっかけに、一般顧客の方々に防犯製品を提案したいという思いが募り思い切って小さなショールームを会社の一角に併設することにいたしました。それまでは100%建設会社の下請け工事をしていた弊社でしたので、一般顧客向けの販売は全く違う世界であり、同時にまだまだ採算の取れる部門ではないため企画・販売・施工管理・資金回収までを自分ひとりで行わなくてはなりませんでした。

チラシ・ホームページを使った販促活動や公共または生協などの行事に出店。さらには地元のCATVを使って硝子をたたき割る映像を流したり、様々な方法で防犯ガラスをはじめとする窓の防犯対策を提案してまいりました。その結果、侵入の不安を解消したい、また実際に被害に遭い対策を考えていたという方から防犯ガラスをご採用いただくことができました。施工の際は必ず職人さんと共に現場に出向き、お客様にご満足いただけるよう丁寧な仕事を心がけています。施工後、お客様の喜ぶ笑顔を見るたびに、今ではこの仕事が私の生き甲斐であり天職だと思えるまでになりました。



しかしながらコストの問題で採用したくてもなかなか現実には難しく、現在防犯ガラスが広く普及しているとは言えないのが現実です。これからますますグローバル化していく我が国で防犯対策は確実に必要に迫られてきますが、いかにその意識を高めていくかが今後の大きな課題でもあります。

さて、弊社は平成18年の山梨県防犯設備士協会の発足と同時に会員企業とさせていただき、その後平成21年には私が協会より防犯アドバイザーの任命を受け、警察の方々といっしょに防犯診断をするなどの活動を続けて参りました。その中で防犯に対する知識をさらに深めたいとの思いで平成22年6月、「防犯設備士」の試験に挑戦いたしました。

電気・設備機器など専門分野以外の勉強は大変でしたが、無事合格通知が届いた時のうれしさは今でも忘れることができません。ただこの資格は持っているだけでは意味がありません。資格に恥じな



い知識、さらには安全に対する使命感を持ち信頼される人間として日々の努力を続けていくことで、初めて防犯設備士として認められるのではないかと思います。

(財)都市防犯研究センターの冊子「窓と扉」によると一般住宅による空き巣事件では窓と扉からの侵入が93.5%を占めていることから不法侵入者を阻止するためには窓と扉の防犯性能を高めることが最も重要なことであるが、我が国で現在使用されている窓と扉が今発生している犯罪手口に対応できているか検証してみるととても不安であると書かれています。侵入窃盗事件の認知件数がピークであった平成14年には警察庁他による防犯性能試験で5分以上耐えた製品を合格品と認定し、後に「防犯性能の高い建物部品目録」として「CPマーク」が表示されるようになりました。このCPマークこそ私共が日ごろ取り扱っている製品に付けられているものであり、CPマークの普及推進をしていくことは防犯設備士としての大きな役割でもあります。

防犯には設備・監視性の確保・コミュニティなどの対策がありますが、これからの時代はCPマークの防犯ガラス・サッシ・シャッター・フィルム・錠前の使用を併用することが侵入犯に対する強い抑止力となることは間違いありません。その中でお客様にいかに納得いただける説明ができるかが重要であり、資格を持った防犯設備士であるからこそ自信を持って提案できるのではないかと思います。

また、例え被害がなかったとしても侵入された後に不安感が根強く残ってしまうのはやはり女性です。最悪その後の人生を変えてしまうこともあるかもしれません。防犯設備士であり同じ女性の立場であるからこそ、このような被害を無くし、不安を取り除くことが私の使命ではないかと思うのです。

これからも山梨県防犯設備士協会の保坂代表理事、内田事務局長をはじめとする先輩方と共に、地域の防犯対策に力を注いでまいりたいと思います。



硝子破壊実験



防犯診断